



Agri Note 菜園

アグリノート菜園情報



JA福井県

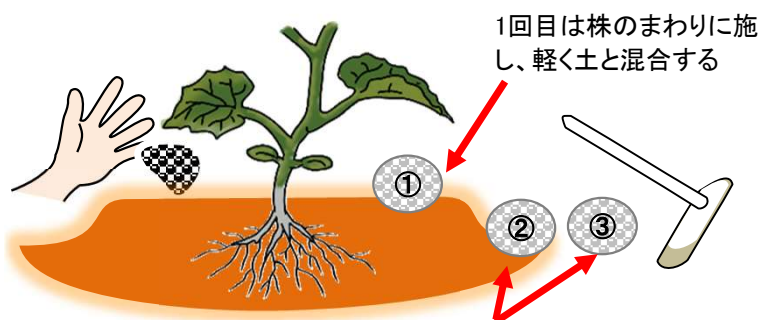
梅雨の季節になりました。雨の日はちょっと気分が落ち込みがちですが、お花や新緑が美しい季節でもあります。この時期の、カッパを身に着けながらの農作業は何かと大変だと思います。さて、カッパといえば河童の好物はキュウリと言われているのですが、その理由は、瑞々しいきゅうりが水神信仰のお供え物に欠かせない野菜だったから（河童は水の神様）。今回は、河童だけでなくみんな大好きキュウリについて栽培のポイントを案内します。自家菜園のとりたてキュウリの収穫を楽しみに、これからの夏本番、体調管理に十分注意して菜園管理を行いましょう。

1. キュウリ栽培について

キュウリは追肥や防除の管理で栽培を長く楽しむことができます。キュウリは夏野菜の中でも特に病気のリスクが高い野菜です。特に、うどんこ病やべと病は必ずといっていいほどかかる病気で、放っておくとすぐに株全体に広がって枯れてしまうこともあるので防除が大切です。

2. 追肥について

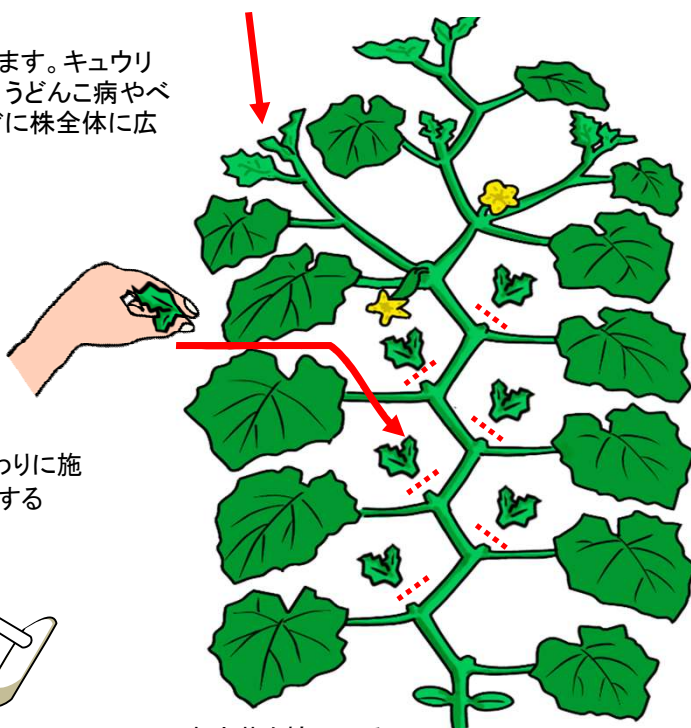
- 追肥は1本目の実がなりだした頃が最初の目安。
- 一度の追肥に多量やりすぎない（そさい5号の場合1㎡当たり20g程度施します。）
- その後は二週間おきに定期的に行い、肥料切れさせないようにする。



1回目は株のまわりに施し、軽く土と混合する

2、3回目は軽く溝をつくり、肥料を施してから土を畝に寄せ上げる。

誘引（支柱やネット等）



わき芽を摘み取る

- 株元から8節目くらいまでのわき芽や実ったキュウリは早めに採るようにしましょう。

3. 病害虫対策について

キュウリの栽培で一番大切なのが、病気の早期発見と予防です。うどんこ病やべと病などにかかったら症状のひどい葉を取り、薬剤で防除して、病気の広がりを抑えるなど早めに対処します。また、べと病対策としてマルチや敷きわらなどにより雨の跳ね上がりを防ぎましょう。注意する害虫はウリハムシなどです。ウリハムシは集中すると被害が大きくなるので、見つけたらすぐに捕殺しましょう。補助的に薬剤の散布も効果があります。

べと病（梅雨時に葉の表面に角ばった黄色い斑点が現れます）

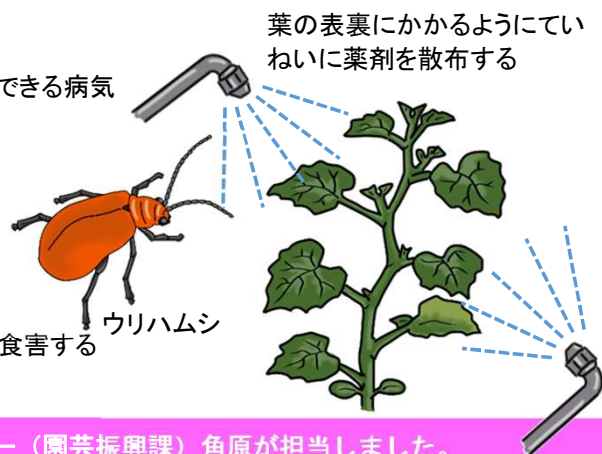
- べと病は葉っぱに葉脈で区切られた角形で淡黄色の斑点ができる病気
- 菌が葉っぱの気孔から侵入し細胞内に広がり発生する
- 多湿で葉が濡れる状態が続くと発生しやすい

うどんこ病

- 粉を吹いたような白い斑点が葉の表面に現れる。

ウリハムシ（5月以降発生する）

- 成虫はオレンジ色で空を飛び回っている甲虫
- 成虫はリング状に葉や実を食害し、幼虫は根部に入りこんで食害する
- 成虫になると殺虫剤を散布しても飛び回るので防除が難しい



葉の表裏にかかるようにいていねいに薬剤を散布する

ウリハムシ